



KYOTO UNIVERSITY

”総合知”の先端大学院

京都大学 大学院

総合生存学館

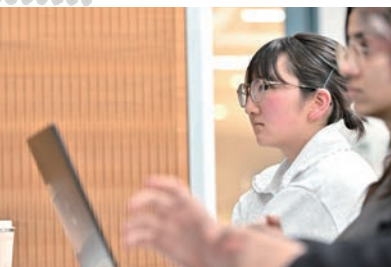
5年一貫制博士課程

3つのコース

サステナビリティ総合知コース

ウェルビーイング総合知コース

フロンティア開発総合知コース



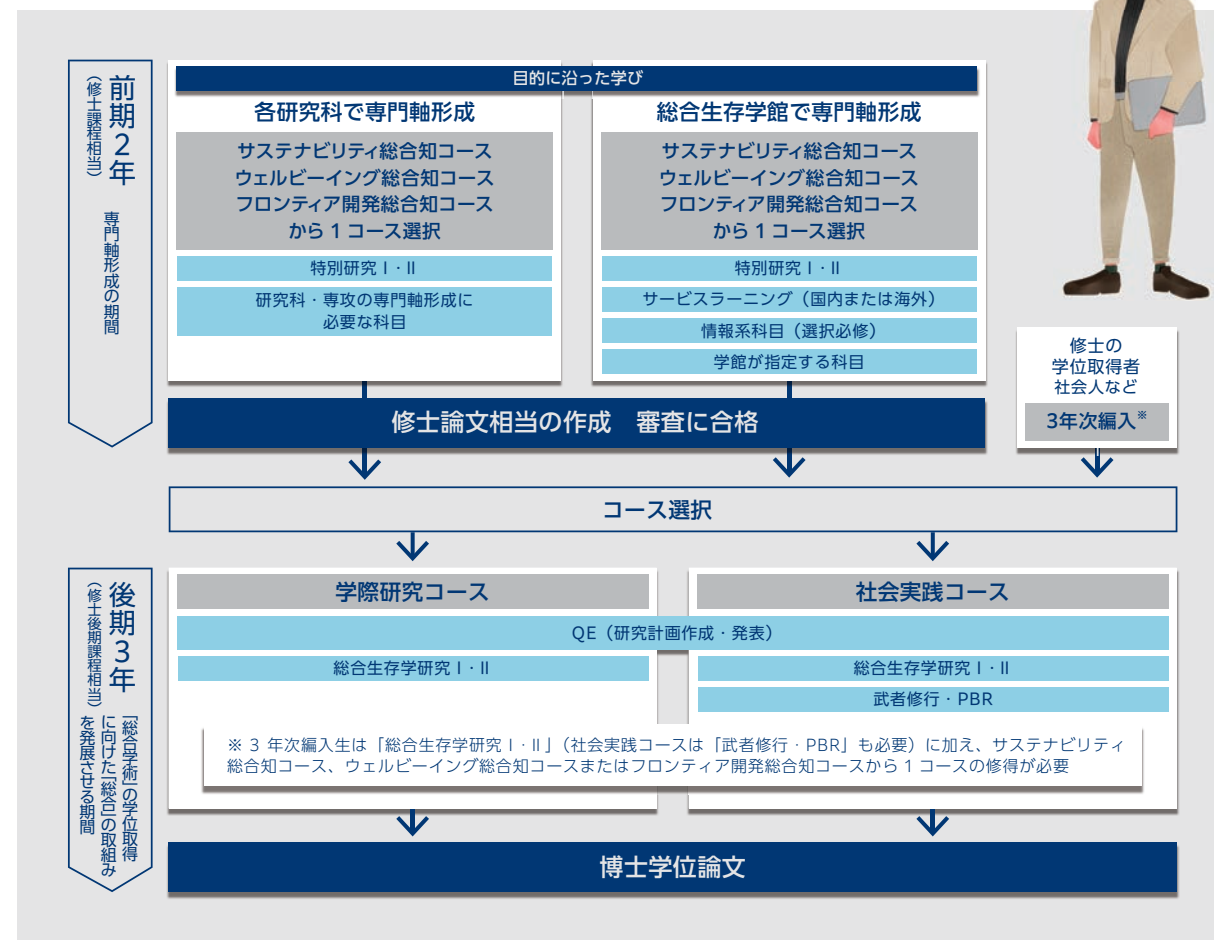
自ら見出した社会課題の解決に向け 課題発見力・分析力・実践力を備えた

研究成果を社会実装する 真のグローバルリーダーの育成

個々の希望に沿った学修設計が可能なカリキュラム

社会課題の解決を目指し、学生は自らが提案するテーマで主体的に研究を行います。
前期2年は、確かな専門軸の形成と、それを総合知へと発展させるための基礎的能力を、体系化された3つの教育コース（選択）で習得します。後期3年は、専門軸を基礎とした研究を発展させ、融合型研究を行う「学際研究コース」、専門軸を基礎とし国内外研修である武者修行・PBRを中心とした実践型研究を行う「社会実践コース」のいずれかにおいて博士（総合学術）学位の取得を目指します。

総合生存学館の新教育課程



総合生存学の概要

従来の大学院では、大学院生は、個々の教員のもとで研究室の一員となり、研究室が取り扱う研究領域に関連する研究を進めることで、特定の学問分野の発展に貢献してきました。

一方で、総合生存学館では、複合的な問題に興味を持つ大学院生が自ら研究テーマを提案し、異なる学問分野を研究する複数の教員との協働によって研究を遂行して、その研究成果を社会に実装することを目的としています。

前期2年は着実な足場（専門軸）を形成ながら、総合知コースの履修により、専門知を総合知へと発展させる素地を形成します。また、総合生存学館で専門軸を形成する学生は、サービスラーニングなどの科目を通して、社会に

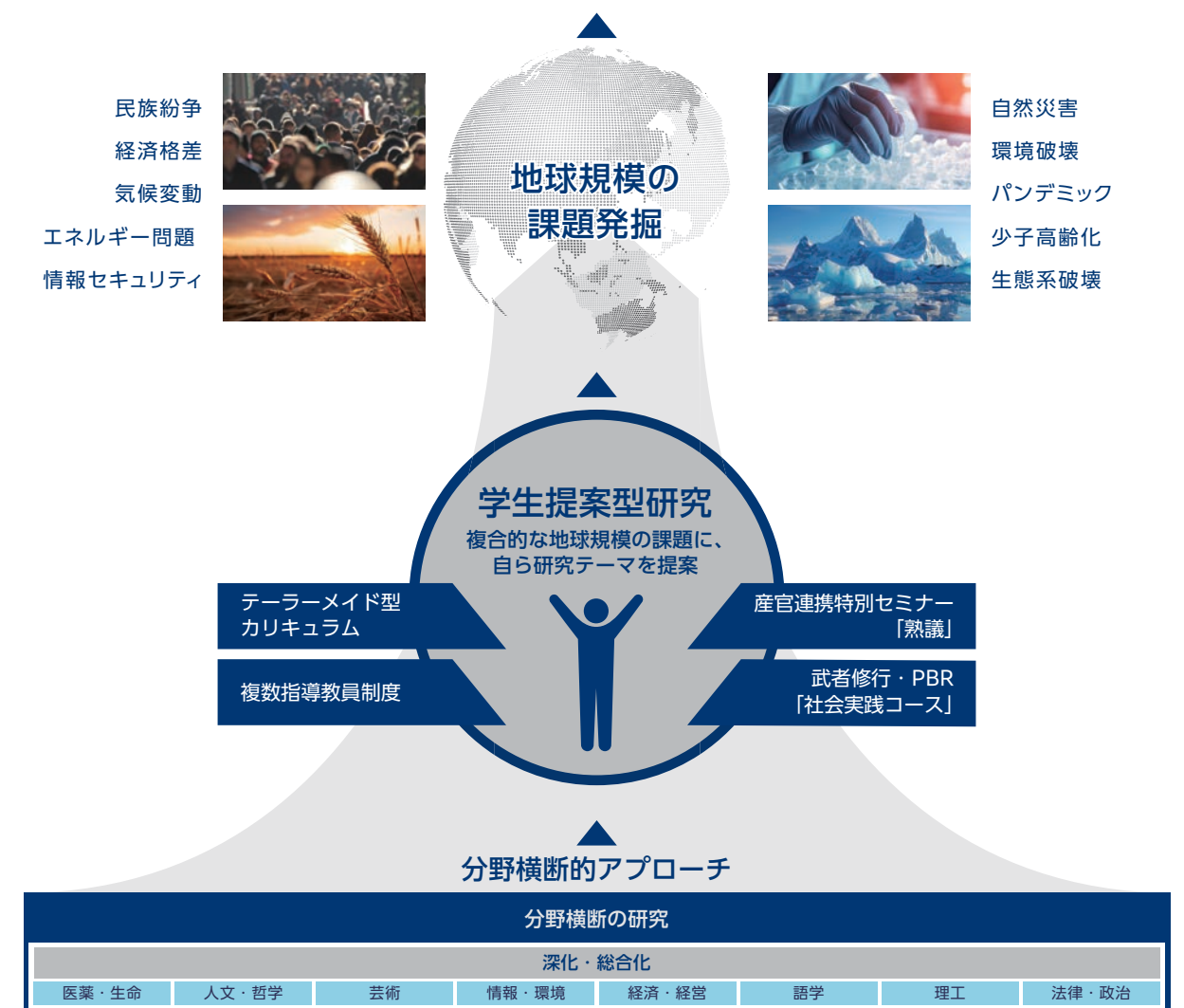
対する自身の貢献や役割についての未来像を明確にし、それに向かって必要な分野の知識や方法論を学び、計画的に体系的文理融合研究を進めていきます。

後期3年は一人ひとり専門軸をベースに学生自らが提案する研究計画に応じた指導教員と共に総合知への発展を目指します。一部の時間を海外武者修行（6ヶ月以上）や、研究成果の社会実装の場であるPBR（Project-based Research）に充てることも可能です。

こうした独創的な環境により、個別の学問分野では対応が難しい複合的な問題を解決し得る人材を輩出します。

真のグローバルリーダーとして

地球規模課題の解決を目指し、
分野横断型の研究成果を社会に実装する。



総合生存学館は、2013年4月、京都大学の第18番目の大学院として設立されました。

その目標は、現在社会が直面する数々の複合的・構造的な諸問題を解決するための実践的学問である「総合生存学」を確立し、この実践的学問を修め社会変革に取り組むグローバルリーダー人材を育成することです。

世界には、人類の生存を脅かす地球規模の諸課題があふれています。気候変動、自然災害、環境破壊、紛争、経済格差、パンデミック、少子高齢化など、枚挙にいとまがありません。こうした複合的な地球

規模課題を克服するためには、これまでのような細分化された特定の専門分野だけでなく、諸学問を幅広く探求し統合する「総合知」の方法論を確立する必要があります。そのためには、関係する諸々の学問体系の「知」を結び付け、編み直し、駆使して、複合的な社会課題の発掘・分析と定式化・構造化を行い、社会実装までの解決や思想・政策や方法を幅広く探究することが求められます。

総合生存学は、こうした社会背景から誕生した学問であり、その研究・実践の過程において、高次元で総合的な文理融合能力及び俯瞰力が培われると期待されます。

研究成果を社会実装する 真のグローバルリーダーの育成

地球規模の課題に挑む

次世代のリーダーを育成する3つの総合知コース

総合知・総合生存学とは

地球規模の課題を解決するためには、分野の垣根を越えた幅広い「知」を結集し、課題の発見と解決策の探求に活用することが求められます。この「知」の融合と統合的な活用が、私たちの提唱する総合知であり、総合生存学は、総合知の理念を基盤に分野横断型の研究を推進し、この研究成果を政府、産業界、社会全体と連携させ、実社会での課題解決を目指します。

総合生存学館では、**総合知**を実践するためのアプローチや方法論を体系的に学べるよう、**サステナビリティ** **ウェルビーイング** **フロンティア開発**という3つのコースを設置しています。このプログラムは、総合生存学を深く探求するための確固たる基盤ともなる学びの場であり、受講者は、自身の研究テーマを新たな視点から再定義し、地球規模の課題に挑む力を養います。

サステナビリティ総合知コース

本コースでは、カーボンニュートラルで持続可能な社会の実現を目指し、環境問題に対する総合的な視点と解決力を養います。具体的には、国際情勢や経済、資源問題といった多角的な視野を持ちながら、現在直面する環境課題に取り組む知見を身につけます。また、サステナビリティという複雑な構造を深く理解し、文系・理系の枠を超えた分野横断的な学術研究を推進するための基盤を提供します。このコースを通じて、総合知の基礎力を習得し、未来の環境問題解決に貢献できる広い視野と実践力を身につけることを目指します。

ウェルビーイング総合知コース

本コースでは、ウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好な状態)の社会的背景を理解し、実践的な問題解決力を養います。人文・社会科学と自然科学の視点から基礎知見を学び、総合知の方法論や分野横断的な研究手法を習得することで、地球規模の課題に柔軟かつ効果的に対応する力を身につけます。

フロンティア開発総合知コース

本コースでは、宇宙開発(月・火星の基地建設や資源探索)と国際開発(途上国支援、平和構築など)をテーマに、課題解決に必要な総合知の基礎力と実践力を養います。受講者は、いずれかの分野に焦点を当てつつ学際的な視点を身につけ、地球規模の課題に対応する幅広い視野と実践力を培います。

特色ある教育

産官連携特別セミナー「熟議」

社会の様々なセクターで活躍しているトップリーダーと徹底的な議論を行うセミナーです。実社会の様々な課題に関するディベートなどを行うことにより、問題意識の育成と深掘りを図ります。国際機関、企業など様々な分野からの学外講師を総合生存学館特任教員として招へいします。

武者修行

社会課題が生じている現場で実践的に活用できる知識と経験を得るため、3～5年次に「武者修行」と称して国際実践活動に取り組めます。世界視点での自らの位置を見定め、国際的リーダーとしての意識と責任感及び突破力を一体的に育成することを目的としています。また国際的に通用する総合力、社会性の育成、リーダーシップ能力の増進を図ります。

国際教育セミナー

国連・国際機関、政府関係機関等において活躍するトップリーダーを招へいし、講演いただきます。学生は、講義や対話を通じて、グローバル・キャリアを構築していくために必要となる知識やスキル等を、理解・習得します。

サービスラーニング

地域コミュニティや途上国において実際に社会課題に触れながら、実践的な学びを通じてリーダーに求められる俯瞰力、行動力、コミュニケーション能力などを習得します。

ロールモデル

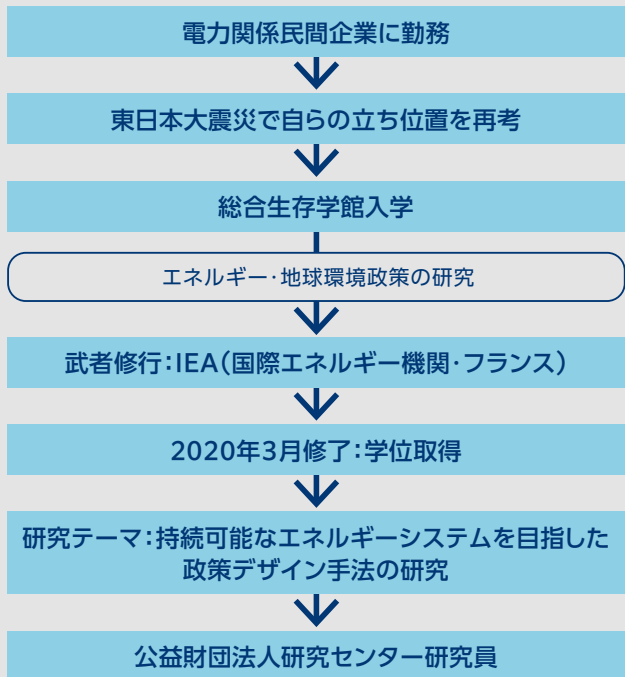
様々な分野で活躍する卒業生モデル

Type1

エネルギー政策から持続可能社会の実現をめざす

京都大学法学部卒業

電力会社就職時に東日本大震災を経験し、「エネルギー政策はどうあるべきか、よく考えた上で新しいステップを踏み出したい」と考えるようになり、総合生存学館への進学を決意。在学中は日本のエネルギー政策について政策過程の観点から実証的に調査し、その後は科学哲学や科学技術社会論、行動経済学、モデル分析の方法論などの知見を取り入れ、エネルギー政策の改革に向けた具体的な方法論の検討を進める。後期課程では、IEAの特任研究員・アナリストを経験した。現在は公益財団法人地球環境戦略研究機関に勤務。行政のエネルギー施策の立案につながる調査研究や、持続可能な地域社会実現に向けたサポート業務などに携わるほか、若者を対象としたワークショップの企画などにも携わる。

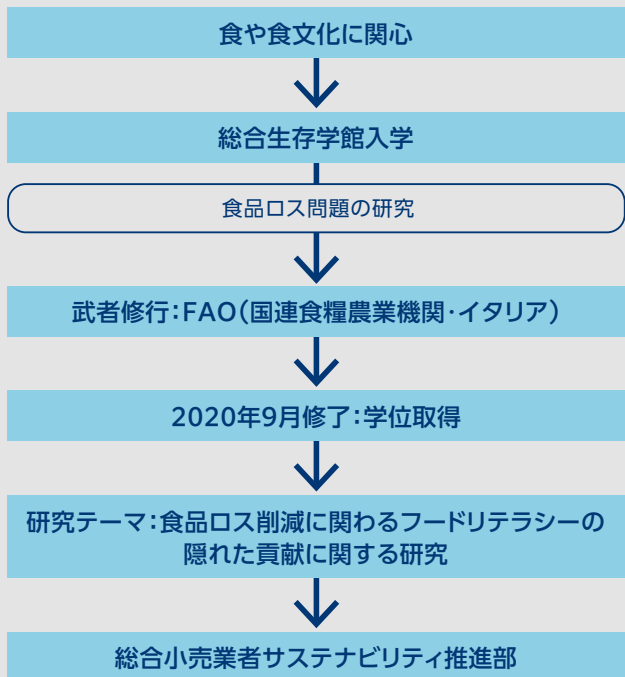


Type2

持続可能社会に向けて食や流通の課題に取り組む

カナダの大学

大学在学中、食文化や持続可能な食料生産に関心を抱き、総合生存学館に進学。在学中は食品ロスをテーマに研究を進め、4年次には武者修行として、FAOのローマ本部で食品ロス削減に向けた啓発活動などを経験した。その後、一般社団法人サーキュラー・エコノミーのインターンシッププログラムに参加。その時の縁がきっかけとなり、セブン&アイ・ホールディングスへ就職。現在はサステナビリティ推進部に所属し、ESG投資評価機関の対応をはじめ、脱炭素化、店舗や消費者の食品ロス削減、プラスチックのリサイクルなどの課題に解決に取り組んでいる。また、国際機関からのアプローチに対応したり、国際会議に出席したりすることも多く、現在はOECDやユニセフとのプロジェクトを担当。



入試概要

募集要項(一般選抜)はこちら

一般選抜の募集要項の詳細は右の二次元バーコードからご確認ください。



募集要項(第3年次編入学)はこちら

第3年次編入学の詳細は右の二次元バーコードからご確認ください。



修了生の進路

思修館プログラム履修生および総合生存学館学生の進路先一覧※

【国際機関】

アフリカ開発銀行アジア代表事務所
国連食糧農業機関
(Food and Agriculture Organization
of the United Nations: FAO)
国連大学
国連本部
世界知的所有権機関
(World Intellectual Property
Organization: WIPO)
東アジア・アセアン経済研究センター
(Economic Research Institute for
ASEAN and East Asia: ERIA)

【行政機関】

外務省
経済産業省
独立行政法人 国際協力機構
国税庁
独立行政法人 国立成育医療研究センター
公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会
社会福祉法人 尚徳福祉会
公益財団法人 地球環境戦略研究機関
内閣府
公益財団法人日本離島センター

【研究機関】

九州大学
京都大学
京都情報大学院大学
神戸大学
清華大学
東京大学
名古屋大学
横浜国立大学
立正大学
立命館アジア太平洋大学
European University Institute, Florence Italy
Lawrence Berkeley National Laboratory

【企業】

アイリス株式会社 (Aillix, Inc.)
アクセンチュア株式会社
アスデラス製薬株式会社
エიმネクスト株式会社
株式会社えんホールディングス
関西電力株式会社
グラジュエイト株式会社
清水建設株式会社
シンプレクス株式会社
株式会社ステージ
株式会社セブン&アイ・ホールディングス
デロイトトーマツ コンサルティング合同会社
デロイトトーマツ リスクアドバイザリー合同会社

東芝エネルギーシステムズ株式会社
株式会社ドットコンサルティング
株式会社日産アーク
日本・エヌ・ユー・エス株式会社
日本郵船株式会社
ノバルティス ファーマ株式会社
パタゴニア・インターナショナルインク 日本支社
株式会社みずほフィナンシャルグループ
みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社
株式会社メドレー
八千代エンジニアリング株式会社
株式会社読売広告社
楽天グループ株式会社
株式会社リュウクス
レバンガ北海道
株式会社it's
Bosch China
Colorz国際税理士法人
HENNGE株式会社
Huawei
株式会社 JERA
JX金属株式会社
KDDI株式会社
PwCコンサルティング合同会社
SBテクノロジー株式会社

(※ 未修了者の就職先も含んでいます)

思修館特待生制度 (令和6年度開始)

・思修館特待生

京都大学大学院総合生存学館(思修館)では、入学試験で優秀な成績を収めた学生を対象として令和6年度から特待生制度を導入しています。特待生には、5年一貫制博士課程の前期2年間・月額10万円が支給されます。

京都大学 大学院 総合生存学館

京都市左京区吉田中阿達町 1 東一条館 〒606-8306 TEL:075-762-2001
MAIL: info.shishukan@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp URL: https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/

